

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第6部門第1区分
 【発行日】平成24年11月1日(2012.11.1)

【公開番号】特開2011-191221(P2011-191221A)
 【公開日】平成23年9月29日(2011.9.29)
 【年通号数】公開・登録公報2011-039
 【出願番号】特願2010-58625(P2010-58625)
 【国際特許分類】

G 0 1 B 11/00 (2006.01)

G 0 1 B 11/25 (2006.01)

【F I】

G 0 1 B 11/00 H

G 0 1 B 11/25 G

G 0 1 B 11/25 H

【手続補正書】

【提出日】平成24年9月12日(2012.9.12)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

また、制御プログラムがテレビ3の機能を制御するためのプログラムである場合、物体検出部31aは、情報取得装置1から供給される3次元距離情報から画像中の人およびその動き(ジェスチャ)を検出する。そして、検出された動き(ジェスチャ)に応じて、テレビ3の機能(チャンネル切り替えやボリューム調整、等)を制御するための処理が制御プログラムにより実行される。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0052

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0052】

レンズホルダ201は、軸対称なコマ形状を有している。レンズホルダ201には、上方からコリメータレンズ112を嵌め込むことが可能なレンズ収容部201aが形成されている。レンズ収容部201aは、円柱状の内面を有しており、その径は、コリメータレンズ112の径よりも僅かに大きくなっている。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0053

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0053】

レンズ収容部201aの下部には円環状の段部201bが形成され、この段部に続いて、円形の開口201cがレンズホルダ201の底面から外部に抜けるように形成されている。段部201bの内径はコリメータレンズ112の径よりも小さくなっている。レンズホルダ201の上面から段部201bまでの寸法は、コリメータレンズ112の光軸方向の厚みよりもやや大きくなっている。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0076

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0076】

本実施の形態では、メモリ領域Cに記憶された撮像データを用いて、CPU21の3次元距離演算部21cによる演算処理が行われる。よって、これにより取得された3次元距離情報（検出対象物の各部までの距離に関する情報）は、精度の高いものとなり得る。